

さまざまな災害を体験して

防災を学ぼう!

日ごろから身を守る意識を!

ジュニア記者が訪問した本所防災館では、地震や暴風雨などの自然災害をはじめ、火事の消火や避難の仕方などを学びながら体験できます。今回、本所防災館館長・今村均さんの説明を聞きながら、4つの災害体験をしました。みんな、いつも以上に真剣です!

災害の映画を見て、防災意識を高めるぞ!

▶映画を見るときは、3D専用のメガネを掛けます。音に合わせて座席が振動するなど、映像だけでなく設備や音響もすごい! 地震の怖さが伝わります。



災害体験の前に、館内にある防災シアターで「地震」をテーマにした3D映画「マイ・ホームワーク〜ボクたちに渡された3つの記憶〜」を鑑賞。この映画は、2011年3月11日に起きた東日本大震災後に東京消防庁が企画・製作した防災教育アニメーションです(ルミエール・ジャパン・アワード特別賞受賞作品)。ジュニア記者たちが生まれる前の地震の映像もあり、とても勉強になりました。

震度7の地震体験



地震が起こったら慌てずに、クッションなどで頭を守りながら、テーブルの下などの安全な場所へ。揺れが収まるまで動かないようにしましょう



テーブルの足につかまって、揺れが収まるのを待ちます。その後、二次被害の火災を防ぐためにガスの元栓を締め、ブレーカーを落としてから外に避難します



体験は約1分だったけど、もっと長く感じました。直下型地震体験の縦揺れが怖かったです。

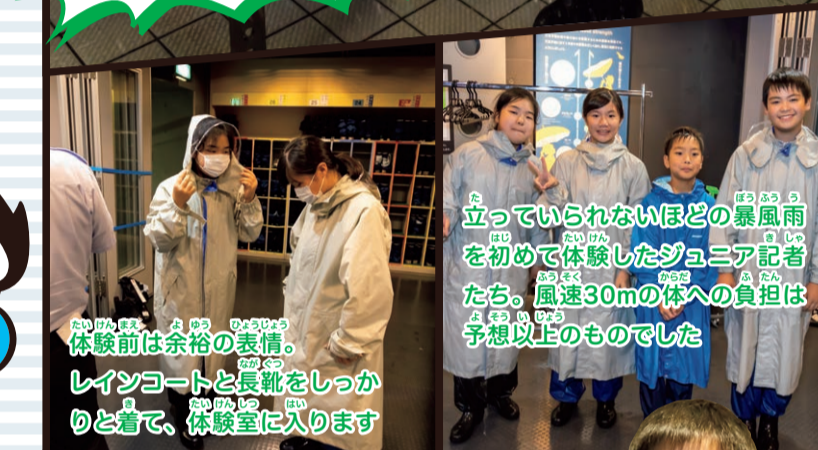
稲葉祐大くん

実際に過去に起こった地震が体験できるコーナーで、今回は、特別に最大震度7の地震を体験! 東日本大震災のときの宮城県での地震を再現した大きな横揺れと、直下型地震を想定した下から突き上げるような強い揺れを体験しました。揺れを感じたら身の安全を最優先に行動しよう。

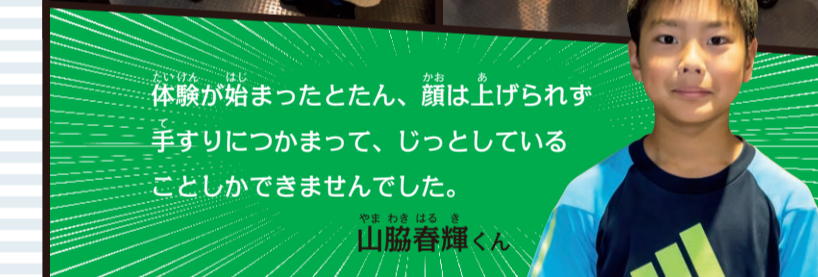
風速30m以上の暴風雨体験



だんだん雨と風が強くなっていきます。大雨警報レベルの、バケツをひっくり返したような大雨では、傘を差すこともできません



立ってられないほどの暴風雨を初めて体験したジュニア記者たち。風速30mの体への負担は予想以上のものでした



体験が始まったとたん、顔は上げられず手すりにつかまって、じっとしていることしかできませんでした。

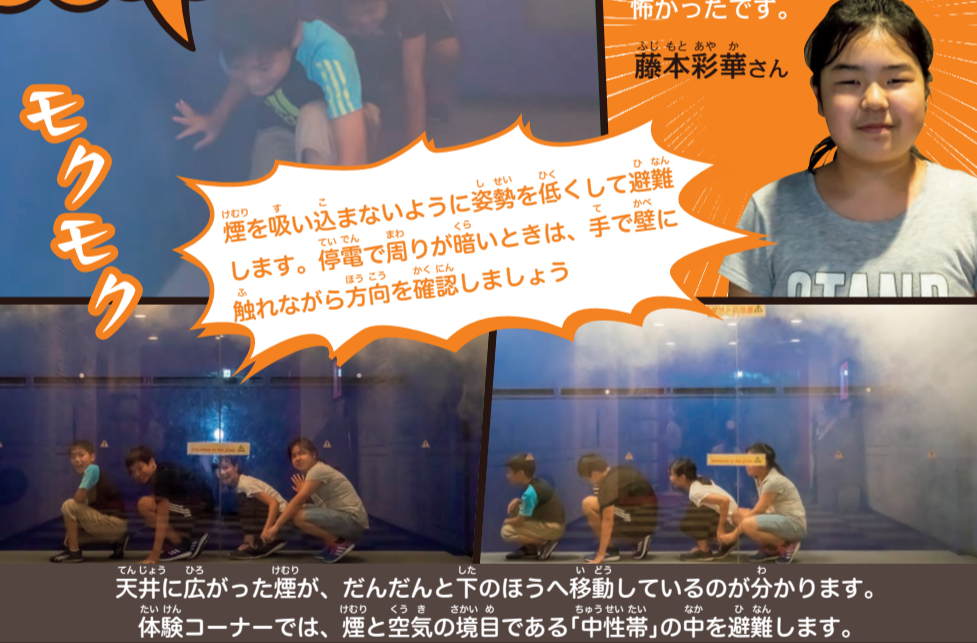
山脇春輝くん

台風などで大雨や暴風が吹くと、屋外では木の枝や看板などの物が飛んできて、怪我をする危険性があります。台風や大雨の予報が出たときは、家から出ないようにしましょう。外出中は、雨や風が強くなる前に安全な場所へ早めに避難しましょう。ジュニア記者たちは風速30mの体験の後に、1時間の雨量30mmを体験しました。

煙の動きに気をつける煙体験

火災が起こると同時に発生するのが煙です。煙は上のほうに広がる特性があるので初めは天井に集まり、それから少しずつ床へと広がり、部屋全体が煙に包まれます。煙に包まれて避難する方向が分からなくなる前に、安全な場所へ移動することが大切です。

モクモク



天井に広がった煙が、だんだんと下のほうへ移動しているのが分かります。体験コーナーでは、煙と空気の境目である「中性帯」の中を避難します。

電気が消えてしまうと煙がどのくらい広がっているのが目で確認できないので、とても怖かったです。

藤本彩華さん

煙を吸い込まないように姿勢を低くして避難します。停電で周りが暗いときは、手で壁に触れながら方向を確認しましょう

スクリーンに映し出された炎に向かって、消火器を噴射! 早く消火するコツは、風上から、炎の上ではなく、火の根元に噴射し続けることです



1人1本ずつ消火器を持ち、火災現場近くの安全に消火活動ができる場所まで進みます



勢いよく水が出たので驚きました。あっという間に火が広がる怖さも学びました。

茨木智恵さん

消火器を使って消火体験

実際の火災を想定した映像が流れる大型スクリーンに向かって、消火器を噴射します。普段から消火器の保管場所や使い方を知っていると、いざというときに役立ちますが、火災現場はとても危険なので、まずは「火事だ!」と大声で叫び、周りの大人に知らせましょう。

荒川区の防災への取り組み

区役所やホームページでは、災害時の避難場所などが記載された「荒川区防災地図」が見られるよ。また、「荒川区防災アプリ」をスマートフォンにダウンロードすれば、避難場所の確認や電子メールでの安否確認ができるよ。普段から準備しておくこと安心だね。



荒川区防災アプリのダウンロード方法

※「荒川区防災アプリ」で検索するか、下の二次元バーコードを読み取って利用してください ※ダウンロードは無料です(通信料は本人負担)



荒川区は、首都直下地震が起こった際の、火災や建物の倒壊による危険度が高い地域です。また、荒川が決壊し大規模な水害が起こると、区の約9割が浸水すると想定されています。

それぞれの災害についての正しい知識や備えを知り、いざという時のために準備しておくことが大切です。日ごろから家族で、災害が起きた時どう行動するかを話し合っておきましょう。



防災の合言葉 おかしも を覚えてね

- おさない** 避難する時は、前の人を押さないで! 押された人が倒れることがあります。
- かけない** 避難する時は、駆けない(走らない)で! 走ると転びやすく、危険です。
- しゃべらない** 避難する時は、しゃべらないで! 先生や緊急放送の大事な指示が聞こえません。
- もどらない** 忘れ物をして、元の場所に戻らないで! 煙や火の勢いが強くなっているかもしれません。

もしものときのために、避難について家族で決めておいてください。

もし学校にいるときに災害が起こったら、家族と別々に避難する可能性があります。まずは家族に無事を伝えることが大事なので、携帯電話やメール以外に、災害用伝言ダイヤル、災害用伝言板など複数の連絡手段を用意しておくこと安心です。いざというとき慌てないためにも、避難場所や緊急連絡先を決めておく事が大切です。



本所防災館館長 今村均さん

本所防災館ご案内

〒130-0003 墨田区横川4-6-6 問合せ☎(3621)0119



さらに詳しい内容は、本所防災館 検索